



●発行 2016.5.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■第4回お日さま春まつり「エコ・自然エネルギーにふれよう」■

今年も「お日さま春まつり」が、5月8日に多摩区の中野島中央公園で開催されました。当日は快晴で日差しも強く、季節はすっかり初夏でした。原発ゼロ市民共同かわさき発電所としては2回目の参加となります。ミツバチの会の呼びかけで27団体が参加し、参加人数は約1,500人（主催者発表）で、年々増えているとのこと。

まつりのオープニングは威勢のいい「和太鼓の演奏」で始まり、ミニステージでは太鼓の他に「大道芸」、「多摩高合唱部によるコーラス」、歌声喫茶を思わせる「みんなで歌おう」や、まつりの趣旨にフィットした「ギター演奏と歌」など、様々なパフォーマンス（出し物）があり、みんなで楽しい時間を過ごしました。また、模擬店や餅つきなどに地域の作業所や町内会の方たちがたくさん参加されており、4回目にしてすっかり地域に定着したおまつりになっていると感じました。模擬店だけでなく、子どもコーナー、健康コーナーへの参加も含めて市民団体の出展参加も多数あり、ソーラークッキングや太陽光発電で動くミニ電車の展示、ミニペレットストーブでお湯を沸かして入れたコーヒーや焼き芋の試飲・試食など、化石燃料に頼らない暮らし方の実演に多くの人に関心を示していました。

ミニカーを手動で走らせるのが人気！



電力自由化のミニ講座と原発ゼロをアピール



当法人はパネル展示と手動で走るミニカーの体験型展示、生ビール販売で出店しましたが、暑かったのでビールは昼前には完売してしまいました。アピールタイムでは「電力小売全面自由化」についてのミニ講座を行い、「再生可能エネルギーの供給を中心とする電力会社を選んで下さい」とのアピールに、マンション管理組合の理事をされている方がもっと詳しい話を聞きたいとブースに来られたり、「屋根貸しウオンテッド！チラシ」を配布したことで質問を受けたりしました。地道に活動をアピールしていけば必ず反応があることを実感しました。

また、イベントに参加するごとに顔なじみの団体や個人も増えてきて、ネットワークが広がることでエコ・自然エネルギーの普及も進んでいくのだと思いました。すっかり日焼けしてしまい、5月の日差しがこんなにも強いことを改めて感じた1日となり、今回、出展参加された方とは9月の「おひさまフェス」での再会を期して、心地よい疲労感と充実感を感じながら家路に着きました。

理事 石村 早苗



■6/26 総会記念講演 ～再エネ条例制定の意義～

原発に頼らない、環境に優しく災害に強い社会の実現には、エネルギー構造を小規模分散型・地産地消型にして、再生可能エネルギーを普及させることが欠かせません。個人や自治会、NPOなどが小さな単位で再エネを利用できれば、その地域の持続可能性は高まります。

しかし、個人や小規模団体が再エネ発電設備を持つとしても、資金面、技術面、設置場所の確保など、様々な点で困難が伴います。

そこで、条例によって、行政が再エネ発電施設の設置を支援する枠組みを設けることが重要になります。再エネ発電設備を設置しようとする人や団体が、行政から、資金の貸し付けや設置場所の提供、発電事業についてのアドバイスの提供など、様々なサポートを受けられるようにするのです。

当NPO法人では、川崎市においてもそうした条例が必要であると考え、長野県飯田市などの先進事例を参考に、条例案作りに取り組んできました。その活動のアドバイザーとして、総合地球環境学研究所の研究者である増原直樹さんに、度々お力添えをいただいています。

6月26日（日）の総会記念講演では、その増原直樹さんをお招きし、「再エネ条例制定の意義」というテーマでご講演をいただきます。

増原さんは、地方自治論や自治体の環境エネルギー政策論の専門家で、これまでに条例の制定に携わった経験をお持ちです。また、全国の再エネ条例の研究もされており、各地の再エネ条例の特徴などに精通しておられます。

今回の講演では、増原さんに再エネ条例の果たす役割や、全国の再エネ条例の実情、条例制定に向けて私たちにできることなどについてお話をさせていただきます。

原発に依存しない社会の実現のためには、脱原発を訴えるとともに、再エネの普及を目指して、再エネ条例の制定運動を展開していくことも必要です。

6月26日（日）の総会記念講演に、ぜひご参加ください！

政策検討チーム 岩坂 康佑 こうすけ

●日時：6月26日（日） 15：30～17：30

●場所：高津市民館 第4会議室（溝の口マルイ 11階）

The poster features a blue header with the text '総会記念講演' (General Meeting Commemorative Lecture) and 'NPO法人 原発ゼロ市民共同 かわさき発電所' (NPO法人 原発ゼロ市民共同 かわさき発電所). The main title is '再エネ条例制定の意義' (Significance of Renewable Energy Ordinance). A text box contains a quote from Masahiro Nishimura: '福島原子力発電所事故から5年。未だ事故が収束せず、原発に関する問題が山積する中、私たちの社会は小規模分散型・地産地消型のエネルギー構造を持つことが求められています。その実現のための大きなカギの一つになるのが、条例の存在です。再エネ条例の果たす役割や、全国の再エネ条例の具体例、条例の制定のために川崎の私たちにできることはなんなのか？ 再エネ条例に詳しい増原直樹さんに、たっぷりとお話いただきます！' (5 years since the Fukushima nuclear power plant accident. As the accident has not yet been resolved and nuclear-related issues are piling up, our society is being asked to have an energy structure of small-scale decentralized and local production and consumption. One of the key factors for its realization is the existence of ordinances. The role of renewable energy ordinances and specific examples of renewable energy ordinances nationwide, what can we do in Kawasaki for the enactment of such ordinances? We will talk to Masahiro Nishimura, who is an expert on renewable energy ordinances, for a long time!). Below this, the event details are listed: '日時 2016年6月26日(日) 15時半～17時半(開場15時15分)' (Date/Time: 2016 June 26 (Sun) 15:30-17:30 (Opening 15:15)), '場所 高津市民館第4会議室 (ノクティ2 11階、JR武蔵溝ノ口駅北口 東急溝の口駅東口から徒歩2分)' (Venue: Takatsu City Hall 4th Conference Room (Nokty 2 11th floor, 2 min walk from JR Musashi-Koganei Station North Exit and Tokai Koganei Station East Exit)), and '入場料 無料' (Admission: Free). A photo of the speaker, Masahiro Nishimura, is shown. A map of the venue is also included. The speaker's bio states: '講師：増原直樹(ますはらなおき)さん 総合地球環境学研究所・研究員。専門は行政学、地方自治論、環境エネルギー政策論、市民参加論、環境自治体会議環境政策研究所理事長など歴任。2012年、環境科学会奨励賞。' (Lecturer: Masahiro Nishimura (Masahara Naoki) Sensei, General Earth Environmental Studies Research Institute, Researcher. Specialties: Administrative Science, Local Government Theory, Environmental Energy Policy, Citizen Participation Theory, etc. Former President of the Environmental Local Government Conference Environmental Policy Research Institute, etc. 2012, Environment Science Association Encouragement Award.). Contact information is provided at the bottom: 'お問い合わせ： NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所 TEL. 044-211-0121 (川崎合同法律事務所内・川崎) genpatuzero.hatuden@gmail.com' (Contact: NPO法人 原発ゼロ市民共同 かわさき発電所 TEL. 044-211-0121 (川崎合同法律事務所内・川崎) genpatuzero.hatuden@gmail.com). A small illustration of a cat is also present.



■8/20～21「福島スタディツアー」のご案内■

「あれから5年、スタディ&現地7人との交流ツアー」 南相馬の被災時と今を実感! +浪江町請戸地区

右写真は2016年4月24日撮影した浪江町請戸地区。福島第1原発のある町で、今年4月にこの地区の通行がようやく許されました。3.11の大震災でこの地を見廻った浪江消防団員は多数のうめき声を聞きながら、日没のため捜索ができませんでした。翌日、救助に向かおうとしましたが、国より避難指示が出て、救える命を救えなかった「無念の地」です。映画「日本と原発」の中で紹介された場所の5年後の現状です。



■「これは原発災害だ！」南相馬ボランティアガイド長谷川明さん

「これは原発災害だ」と今回案内をいただく長谷川明さんはこう語りながら南相馬の最新情報で案内してくれます。NHKが長谷川さん取材して報道すると「複合災害」と変わりました。



南相馬市は福島原発から20㎞と30㎞圏内、30㎞圏外で様相が大きく変わります。20㎞圏内の小高地区は4月現在今もなお国の管轄で、避難指示解除準備区域です。国の帰還政策で除染作業は数千人規模で実施されましたが、未だ数百の家屋は解体されていません。15㎞圏内の小高駅前周辺はきれいに整備されましたが、住民の約1割程度しか帰還を望んでいません。左写真はその駅前にできた「自衛官募集中」の新しい看板です。故障中の放射線量モニタリングポストの横に新しい装置が設置されました。

こうした実態を皆さんに実感していただく企画にしました。

■東日本大災害時、南相馬市立病院は「戦場のようだった」

今回のツアーの目玉は現地の7人の方々との交流です。現地の人でさえなかなか話が聞けない、南相馬市立総合病院院長に講演をしていただきます。質問に答えて「あの時は戦場のようだった」とぼつりと語りました。院長はある決断をしたのです。院長と南相馬市原町保健センターの保健師から、当時の様子を語っていただきます。

■半農半電を目指す、ソーラーシェアリング

福島県は「2040年まで県内の電力を再エネ100%に」を目標として決めました。現在、南相馬市内各所に太陽光パネルが見られます。その中で、食料とエネルギーを一緒に供給する「南相馬ソーラーパーク」と「再エネの里」=右写真=を見学します。

実施期間は8月20日～21日、募集は先着20名。費用は2万円。名前、住所、性別、電話番号、保険用の生年月日を明記の上、genpatuzero.hatuden@gamilまでお願いします。



理事 高橋 喜宣きよし



今月号は、会議でも視察でも朗らかな雰囲気にしてくださる 森川^{せいし}聖詩さんの自己紹介です。

『原爆被爆二世として』

私の父は広島に原爆が投下された時、爆心から970mの近距離にいた被爆者であり、その子どもである私は被爆二世ということになります。

私が「被爆二世」という言葉を知ったのは、中学生の頃で、確か新聞記事か何かだったと思います。幼少の頃から胃腸が弱く、病気がちだったり、けがをすると傷口がなかなか治らず、すぐに化膿したり…、夏休みになっても、暑さで体をこわし、ほとんど家で寝ている日が多かったことが思い出されます。

学生から社会人となるくらいの間に、被爆二世に関するニュース、記事、本などを見たり、様々なきっかけで何人もの被爆二世に出会うこととなり、健康な人もいる半面、私と同じように色々な体の不調を訴えている人もいて、被爆二世の医療保障の必要さを痛感しました。

また、被爆二世の平均年齢が若かった頃、就職や結婚における差別のことが、マスコミ等でも報じられていましたが、私は、そのどちらも経験しました。でも、その後、幸運にも良き伴侶に出会い、33歳にして結婚しました。そして、翌年には子宝にも恵まれたと思いきや、日数が経過しても胎内で成長せず、個体としてこの世に生を受けられる生命力がないことがわかり、涙を飲みました。私は、このことが、自分が被爆二世であることと無関係なこととしては受けとめられません。

『フクシマ』の原発事故と放射線被害…、そしてこれによって生じてきている差別問題は、核問題が、もはや被爆者、被爆二世に限らず、国民的な問題となっていることを象徴していると思います。

国が、被爆者、被爆二世はもとより、放射線被害者（被曝者等）に医療保障をはじめとする保障（補償）を充分に行い、社会的差別をなくすように努めること、また、すべての原発を廃炉にし、自然エネルギー、再生可能エネルギー中心のエネルギー対策に転換するよう、被爆二世の一人として強く訴え、微力ながら皆さんとともに活動していきたいと思います。よろしくをお願いします。



正会員 森川^{せいし}聖詩

【編集後記】

ゴールデンウィーク真っ最中の5月4日に、当NPO法人の長中期目標・実践計画を話し合うための「一日合宿」をおこない、激しい議論をたたかわせました(^o^)/ 50年後の話など、わたくし的には非常に楽しかったのでまたやりたいなあ～（加藤伸子）



■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090—7948—6189（川岸）

